

2025年

安全報告書



1. お客様をはじめ、地域の皆様へ

日頃からわたらせ渓谷鐵道をご利用くださり、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症をあまり意識することなく日常生活を送れるようになりつつありますが、まだまだ油断はできませんので、引き続き感染症対策を徹底して鉄道運行を続けてまいりました。

旅客運輸収入の多くは定期外旅客によるものが占めている中、個人旅行への旅行形態の移行に対応してまいりました。個人向け旅行商品として、従来のプランなどに加え、足尾銅山プレミアムツアーやわっしー号で行くイルミネーションツアーなどを実施しました。線外ツアーとしては、中断していた東京宝塚、大相撲等のツアーを本格的に再開しました。

そうした取り組みを行いましたが、2025年度の輸送人員、旅客運輸収入はともに経営計画を下回る残念な結果になりました。なお、グッズ販売や旅行業収入などを含めた鉄道事業の営業収益は計画値を若干上回る結果となっています。

また、安全対策についても、老朽化の目立つ車両及び線路設備・施設の維持管理に意を払い、日常の点検を着実に行うとともに安全管理に万全を期しております。また、社内で年3回の事故防止検討会及び2ヶ月毎に管理職会議を開催し、安全の再確認、事故事例の研究、車両故障や機器の取扱い等について意見交換や研修を行っております。

さらに、設備の高度化につきましては、一層の安全運行の確保のため、国の補助制度の活用と沿線自治体の支援により、レールの重軌条化、マクラギ更新等集中的な軌道整備を行うとともに、連動装置（内燃発電機）、踏切保安設備など、信号保安設備の更新等により、保守管理体制を強化してまいりました。

年度末から運転士不足により一部ダイヤが運休となっている他、その他の技術系社員も不足している状況にあります。そのような状況でも、社員一人一人が力を合わせ、それぞれの責務を認識し、事故防止活動に取り組むとともに、公共交通機関としての使命を果たしてまいりますので、引き続き皆様のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

この安全報告書は、鉄道事業法第19条の4に則り、輸送の安全確保のための取組等を広くご理解いただくために公表するものです。皆さまに本報告書をご高覧いただき、当社の安全の向上のため、忌憚のないご意見ご感想をお聞かせくださいますよう、よろしく願い申し上げます。

わたらせ渓谷鐵道株式会社
代表取締役社長 布施 正明

2. 安全に関する基本方針

(1) 基本方針

輸送の安全確保を図ることは、鉄道事業に携わる当社にとって重要な使命であり、会社経営の原点でもあります。この認識のもとに当社は、「安全で安心した輸送」を最重点項目とし、法令遵守と、危機管理体制を強化し、更なる安全性の向上を図るとともに、「連携と実績で果たす安全安定輸送」を事故防止活動のスローガンに、社長以下全社員で取り組んでまいります。

(2) 安全目標

列車事故など大きな事故の絶滅

(3) 重点実施項目

- ・事故防止管理体制の確立
- ・責任ある作業体制の強化
- ・計画的教育訓練の充実
- ・車両、設備の故障防止
- ・自主的な事故防止活動の育成努力

◆ 安全管理体制

安全管理体制については、社長の強力なリーダーシップのもと、機動性のある安全管理体制の確立を目指し、現場の情報を把握し、現場に対しフィードバックする体制を構築するため、安全統括管理者を軸とし各課長、運転管理者、施設管理者、車両管理者及び乗務員指導管理者が中心となり、事故防止活動の具体的な実施計画を立て、その実績状況を点検しながら推進し、定期的を開催する事故防止検討会議で問題を確認することにより、社員が問題意識を共有できる体制を構築する。

◆ 事故防止管理体制の確立

各管理者がリーダーシップを発揮し、担当者の責任分担を明確にしたうえで事故防止活動の具体的な実施計画を立て、その状況を点検しながら推進していく体制を確立する。

◆ 車両、設備の故障防止

使用状態に応じた保守管理体制の強化を図るとともに、更新、修繕、重要部品の計画的取替を推進し、信頼性の向上を図る。

◆ 自主的な事故防止活動の推進

春・秋の全国交通安全運動、夏季・年末年始の輸送等に関する安全総点検にあわせ、また、必要な機会をとらえて事故防止検討会を開催し、安全の再確認、事故事例の研究、車両故障や機器の取扱等について意見交換や研修を行い、自主的な事故防止活動を積極的に推進します。

<事故防止検討会>



3. 輸送の安全を確保するための取り組み

安全対策については、一致協力して全力で輸送の安全確保に努めることとし、このため社内の安全・危機管理体制の強化や安全指導、安全教育を徹底し、さらなる安全性の向上を図ってまいりました。2025年度は請負業者への工事及び作業時の労働災害を防止するため勉強会を実施し、地方踏切道災害時管理方法対処要領に基づき情報伝達訓練を桐生土木事務所と実施しました。また、第4種踏切安全対策として、警察による道路標識の更新、月型柵の塗装、注意喚起案内版の設置を行いました。

<第4種踏切安全対策>



(第二遠下)

4. 倒木対策

近年、倒木を起因する輸送障害が多く発生しているため、地域公共交通再構築調査事業補助金を活用し、倒木の発生の恐れのある木等の伐採を行いました。

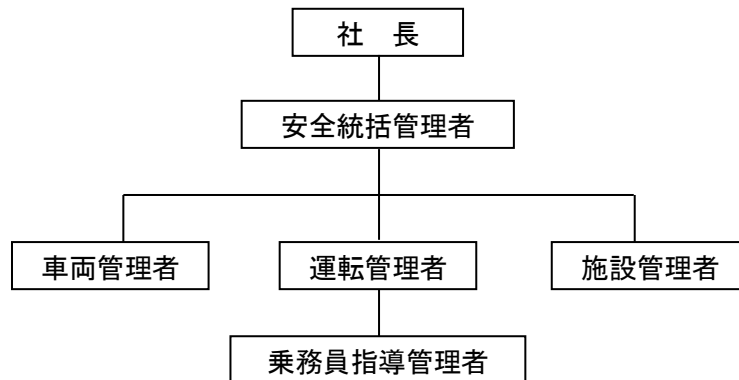
<伐採作業>



5. 当社の安全管理体制

安全管理規程を制定して、社長をトップとした安全組織を構築し、各責任者の責務を明確にしています。

代表取締役社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者	運転に関する事項を統括する。
施設管理者	軌道・施設に関する事項を統括する。
車両管理者	車両に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	乗務員の資質の保持に関する事項を管理する。



6. 運転事故・輸送障害の発生状況

年度	運 転 事 故	輸送障害（列車が30分以上遅れたもの）	
	衝突・脱線・踏切事故	設備・車両等の故障	雨などの自然災害
2021	0	0	4
2022	0	3	13
2023	1	3	18
2024	0	4	18
2025	0	8	13

2025年度の運転事故及び輸送障害の発生状況について、運転事故の発生はなく、輸送障害の発生件数は前年同数の21件となり、その要因は全体の約6割が自然災害で近年の気象の変化によるものと思われます。今後も倒木の恐れのある箇所伐採や災害対策設備、車両の点検整備等をより確実にいき、輸送障害の減少に努めてまいります。

7. 安全対策実施状況

項 目	施 行 箇 所
【線路施設】 レールの重軌条化 線路設備 〃	中野・小中間50N化（448m） 並マクラギ交換 440本 道床交換 原向・通洞間他1箇所 40m
【電路設備】 連動装置 踏切保安設備 防護設備	足尾駅 内燃発電機 1台 相老・運動公園間 愛宕踏切 雨量計の更新（大間々・水沼・神戸・沢入・足尾）
【車両設備】 車両定期検査	WKT形 2両（重要部検査） わ99形 4両（全般検査）

<レール交換50N化>



8. 安全報告書へのご意見に対する連絡先

安全報告書へのご意見、ご感想をお寄せください。

群馬県みどり市大間々町大間々1603-1

わたらせ渓谷鐵道株式会社

TEL:0277-73-2110/FAX:0277-73-3121

URL <https://www.watetsu.com/>E-mail: watetsu@sunfield.ne.jp